

# 寸言

三菱プレジジョン株式会社  
代表取締役 取締役社長  
藤本 聖二



## 新たな事業領域の追求による成長への挑戦

本年4月1日付けで三菱プレジジョン株式会社の社長を拝命致しました。どうぞ宜しくお願い致します。

弊社は1962年（昭和37年）三菱グループ4社と米国General Precision社との合弁により設立しました。翌年、防衛庁（現防衛省）に航空自衛隊F-104J戦闘機用の姿勢方位基準装置と操縦訓練用フライト・シミュレータを納入したのが事業の始まりです。その後、宇宙事業、駐車場システム事業等の新たな事業への参入を図り、シミュレータについては、シミュレーションの対象を航空機から鉄道、自動車、船舶、さらには腹腔鏡下手術等に、また用途・目的を教育訓練から研究開発、展示等と、それぞれ拡大することで創業当初から今日まで基幹事業として弊社の成長に貢献してきました。

弊社を取り巻く環境は、安全保障分野では領土の主権、経済権益をめぐる準有事の事態への対応、また、宇宙分野の官民での市場拡大期待、少子高齢化や自動運転に対応するシミュレータ・駐車場事業の拡がり等、成長に向けたビジネスチャンスが多く存在します。

一方、シミュレータの位置づけも大きく変わってきております。例えば最新のパイロットの養成においては、高忠実度のフライト・シミュレータを中心に各種トレーニング器材を組み合わせたトレーニングセンターでの訓練が主体となっており、もはやシミュレータによる訓練は、実機訓練の補完ではなく、訓練

の主体に置き換わっています。

また、現在官民を挙げ取り組んでいます自動車における自動運転の研究開発では、各種車載センサーや交通環境、通信環境等の模倣と合わせ、あらゆる走行場面の再現が必要となるためシミュレータ無しでは実現への道筋が成り立ちません。さらに、これからは情報処理技術と通信技術を基盤としたAI、IoT、VR等の新たなツールと組み合わせた製品、サービスの提供を進めて行きたいと考えています。

改めて弊社の企業理念である「国際的視野のもと、技術、サービス、創造力の向上を図り、時代のニーズに応え、感動と希望のあふれる社会の実現・発展に貢献」を振り返り、国際的視野において弊社を取り巻く事業環境を俯瞰しますと、鉄道の海外展開や防衛装備品のFMS調達増加、日本が世界に先がけて到来する超高齢化社会における社会的課題の解決等に新たな事業創出につながるニーズがあると考えております。

弊社は、これからも様々な事業活動を通して、顧客・株主・社員・取引先、並びに、全てのステークホルダーに信頼され、さらに満足を頂戴すべく経営の舵取りをして参ります。皆様の忌憚の無きご意見・ご要求を賜り、共に利便性・満足度の高い社会の実現に貢献していきたいと考えます。

今後とも、会員皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。